



ツルさん、仲間が待ってるよ～！ 地域の子どもたちが「ツルの里づくり」について学びました

～平成21年度～
第2回ツルの自然
体験学習会

11月6日、ツルのえさ場・
ねぐらづくりを進めている

中筋川流域、中山地区と江ノ村地区で、今年度2回目の「ツルの自然体験学習会」を開催しました。参加したのは、第1回の学習会でモミ撒きを体験した四万十市立東中筋小学校の6年生と東中筋中学校の1年生です。今回のテーマは、ツルのデコイについての学習でした。

現場で説明を聞いた子どもたちは、デコイに次々にさわってみて、ツルの大きさを感じ取ってくれたようでした(デコイは実物よりも少し大きめに造られています)。



デコイの見学では、ツルの羽ばたきをまねする子どもも！
楽しい学習会になりました

中山
地区

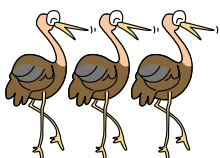
子どもたちが デコイを設置！

中山地区では、今回の体験学習の目玉であるデコイ設置体験が行われました。その後、澤田佳長先生(野生生物環境研究センター所長)より、デコイについての解説がありました。また、夏に撒いたモミの育ち具合も確認。残念ながら、ツルの餌となる稲穂の多くがカモなどに食べられてしまっていて、来年度以降の課題となっていることがわかりました。

上空を飛んでいるツルはデコイを仲間だと思います。仲間がいるなら、そこは安全な場所だと考えて、降りてくるわけです。



デコイの効果とは???教えて、澤田先生！



ツルの訪れを願いながらボルトをしめ、デコイの設置完了！

江ノ村
地区



地域農業との コラボレーション について学習

比較的豊かな自然が残されている江ノ村地区では、ツルが降りやすいように、草刈りや水田耕作などによって、見晴らしのよい環境を復元することがツルを呼ぶ鍵になるという説明がありました。環境にやさしい米づくりを実践しているグループからの有機農法に関する説明や、刈った草をその場で細かく砕いてすぐに肥料できる特殊なトラクターを使った除草作業の見学も行いました。



地元の農家の方が、草刈り粉碎トラクターでの除草作業を実演してくれました



江ノ村地区には2体のデコイを設置

みんなでツルを待ってます！ 国土交通省の「四万十川自然再生事業(ツルの里づくり事業)」

国土交通省では、河川環境の再生・保全の面から「ツルの里づくり」に取り組んでいます。

例えば、江ノ村地区の西谷樋門(排水門)では、中筋川とそこへ流れ込む支川等をつなぐ樋門の水の流出部と中筋川との段差を解消し、えさ場・ねぐらづくりを行っている水田から、水辺の生き物が自由に行き来できる経路を復元しています。



学習会での事業説明の様子



魚は中筋川からも入ってきゆうがでね。

この魚もツルの餌になるがやっ！

魚がいっぱいおる～!!

江ノ村地区、えさ場横の水路にて

四万十つるの里づくりの会では、地域の子どもたちが“未来のツル保護人”として育ててくれることを願い、今後も環境学習の取り組みを継続していきます。

「ツルの里づくり」江ノ村レポート

二番穂残して ツルを待つ！

ツルを呼ぶためには、餌となる二番穂の確保が重要です。二番穂とは、稲刈りをした後の株から茎が伸びて稲穂をつけた状態のこと。当会でもモミ撒きなどを実施し、二番穂の確保に努めてきましたが、草刈りで刈った草の処理やモミ撒き後の除草管理が十分でなかったことなどから、これまでモミは思うように育ちませんでした。

そこで平成21年度は、実際に地元の農家の方々に食用米を植え育ててもらい、稲刈り後すぐに田んぼを耕さないという方法で二番穂を残すことにしました。



数年前まで人の背丈以上もある雑草に覆い尽くされていた江ノ村地区の休耕田。「ツルの里づくり」を進め、人は農業で、ツルはえさ場として、ともに利用することで、「ツルと人との共生」の場へと生まれ変わろうとしています。